

名前（ペンネーム含む）	応募作品 1	応募作品 2 ※2 句目以降は任意	応募作品 3 ※任意
野呂順一	玉松の 群青の海 碧き村	天下一 豊穰の村 桃太郎	宗光の 古き礎 守る民
青函隧道	ヴィレッジが お似合ですよ 新庁舎	ヴィレッジ OFFICE ですね 新庁舎	
みーばん	里帰り 大谷ばりの お出迎え	田舎すぎ グーグルマップも 反応せず	帰るたび 増える移住者 古民家カフェ
中静憲夫（ナカシズカノリオ）	おらが村 祭りの日だけ 活性化	いつの間に 訛り聞こえぬ 村の中	ふるさととは 年を取るごと 近くなる
屋根おばちゃん	わが村を 変えて行くのは 若者だ！		
てっくん	猫に蝶 蜻蛉に鮠 今日客	村といえ隣は初盆らしき仲	
穴戸 翠光	村長に推す竹馬皆帰省中		
あおちゃん	もぎたての よもぎたトマト 食べる幸	村のひと 元気で頼も トマト色	離乳食 村のトマトの 味を知り
山田直樹	ふるさとを 想う心は ここにあり		
林秀樹	村出だと 分かれば今は 憧られ	村を出て 都会に来たら 村回歸	
フーマー	SNSよりも早いよ人の口	還暦を過ぎてても云われ若いモン	誰一人会わぬ散歩の朝6時
でこもん	祭り囃子 遠くへ響く 村の誇り		
くろねこ	空腹に トマトとやさしさ 分ける村	思い出す ひとのぬくもり 蓬田村	
栗田 侑希哉	縁側で 茶飲み話に 花が咲く	川遊び 笑い声さえ 水に溶け	桃太郎 トマト光り 海景色
ほり・たく	移住者が教えてくれる村の良さ	村があるから街があり都市がある	村娘？んでね、ばっちゃんは村ガール
峰木一紀	村の子の 門出見守る 塞の神		
やまたか	かくれんぼ どこまでも続く 村の道	川のそば 石を飛び越え 笑い声	夕焼けに 家並み染まり ほっこり道
一風変わった知識人	ちと休め 粗茶に安らぐ 村家族		
浅見こずえ	若き頃 出たかった村 帰りたい		
ばせり	静かすぎ都会の孫が眠れない	さらさらとせせらぎの音が子守唄	住んでると思えぬ場所に家があり
泉 諒	村祭り笑顔と太鼓風に乗り	村だより名前が出て祖母よろこぶ	村道に野良猫会議ひらかれる
岡崎佐々紅	うらやまし知ってる村はみな消えた	生き残る村は強みの一つある	短くも海水浴のなせる村
古子	空の青 山の緑に 澄む心	住めないが 行きたいボツンと 一軒家	お隣を 知らない街と 好きな村
大野美波	友とみた 村の夕日は うつくしい	母さんの 眠った村に 散る紅葉	
岩中 幹夫	何がある？都会にないものみんなある		
きずき	村歩き 挨拶するのが 楽しくて	ネットより 速いよ声が 届くのが	村の目が 防犯カメラ 村中に
宮本万起男	村去りて ふるさと訛り 夢に聞く	村道に 昔の笑顔 風残る	郵便も 日に一度来る 村の秋
守り人	うわさする 風より速く 牛も知る		
田中恭司	合併で 残った村は 希少価値	コメ求め 蓬田村を 闊歩する	村暮らし コスパ タイパの 二刀流
アキラ	自転車 村道走る 女学生	お祭り 村民集い 政	村祭り お宮に集い 寄り合うよ
長谷川誠	村を出て蓬田村の良さ分かる	「蓬田はいいぞ」世界に広めたい	蓬田は人よし食よし空気よし
桃李	何もない だからふくらむ 夢・希望	何もない あるのは夢と 可能性	
しんちゃん	久しぶり 実家に電話 米不足	便のいい 蓬田村は 都会田舎(とかいなか)	ふるさとと 村は山幸 海の幸
ついにジー	どうしてる 木村と田村 会いたいな		
ゴロにゃん	リタイヤー いつかは村に 住みたいやー	夕暮れ時 トンボ飛び交う 散歩道	「暑いね」と 交わす日常 希少価値
アカエタカ	コンビニの灯りを残し村眠る	乗り合わせ乗り合いバスが走る村	近代化急いで村の良さも消え
夢追い人	伝統と景観村の二刀流	帰省するオイラを村が抱きしめる	都会でも飲めばふるさと村自慢
一刀両断	この村は自然豊かなパラダイス	この村で素敵な四季と過ごす今	笑顔生む住みよい村にずっと住む
井上靖	トマト持ち村の畑で決めポーズ	蓬田でギュッとしててねパパとママ	また値上げ蓬田村は聞こえない
染川染幸	蓬田村 トマトの旨さは めじゃー級	山笑う 海も人も皆 笑う村	仕事終え 汗と笑顔の 光る村
春爺	蓬田の愛する村にUターン	人情と元氣溢れるおらが村	白鳥はそっと静かに見守って
石井秀一	海山の いいところ取りの 村の駅	村の駅 馬刺しチップス 日本一	村の駅 道の駅では ありません
テクノボー	コミュニティ 昔は村で 今界限	村民も 村も元気に するトマト	蓬田は 新幹線の 通る村
ほのぼの	赤ちゃんが 生まれて村は お祭りに	人減るも 人情減らぬ 村祭り	雪しんしん もうすぐ子らの 帰る村
山田和彦	村外れ ポツリと灯る 社の灯	ふるさととは トンネル挟み 無人駅	見張り付 僕らのブル 村の川
だいちゃんZ！	一度出た それでも村は 迎え入れ	助け合う 日本が村に 残ってる	村という 何だかホッと する響き
蛇のとぐろ	村を出て 50年後に 村戻り	この村で 生まれ育って 村が好き	おせっかい でもやっぱり 村がいい
しまたろう	村の駅 観光客よ もっと来て	自分への ご褒美ゆず湯 アップル湯	海まつり パチ持つ腕の たくましさ
もふもふ	拡散の速さはインスタ凌駕する	苗字より屋号で呼ばれる道案内	採れたての村のトマトは濃く甘い
ふわふわ	腹八分いいが最悪村八分	見えずとも隣は隣大事にしょ	村祭り村が一つに盛り上がり
東みなみ	村の顔 みんな待ってた 新庁舎	ハクチョウも 蓬田村でひと休み	蓬田の トマトがなくす 好き嫌い
しなやかーる	憧れは 昔は都会 今は村	都会には 分けてやらない この空気	お星さま ホントに降ると 知った村
小雪	ヤマセ吹く帰りたくなる村がある	惜しげなく湧き出る村の食の幸	村内で満たされている衣食住
ひよっこ60	80歳免許返納まだ先じゃ		
海神 瑠珂	2ページで 見開き終わる 電話帳	大字が かつてほとんど 村だった	村民が 市民昇格 大合併
とまと	村一番 誇れるものは 人の愛	離れても いつもどこでも 村自慢	
ちく	見に行つて 蓬田村に 魅せられて	蓬田村 海山の幸 人の幸	生活費 下がる家計に いい値する
ライス	都会が好きだった農村来るまでは		
字苗田	む可視化ら苗字に多い田村田		
ハイ爺	東京の 風に馴染まぬ おらが村	神楽舞い 豊作願う 村祭り	村を出て 訛り抜けずに 村八分
木村隆夫	焼き干しがあればこと足る独り酒	味わって飲むよもぎ茶の美味さかな	日本酒のつまみは帆立貝柱
わかこ	よもぎたのお米美味しい命のもと	疲れたら元氣とまてで復活を	
GOゆうすけ	無我でなく 蓬田の村に 村夢中	村自慢 田んぼにカエル 案山子さん	村祭り 持続可能な メッセージ
田中 勝	「オイ若造」 喜寿爺様に 古希つかわれ	「オイ若造」 喜寿の爺様 古希つかう	
馬場和義	お神輿を 担ぐ人みな ボランティア	移住者に 畑教えて スマホ習う	バス停に 座っているのは 案山子さん
馬場鈴代	外人に 何もない村 映えるらしい	バス停は 無いけど家で バス止まる	地の言葉 より標準語の人 増えてきた
フクタケ	桃太郎 トマト食たい 遠いよね	香兵衛は やっぱりホタテ 嬉しいな	帆立入り 炊き込みご飯 トマト添え
いしくん	赤き実の 妖精映える 陸奥の海	映え狙い 満天空に スマホ閉じ	青嵐 凧ぐ海川に ヨモギ揺れ
あべっち	米作り いつか父ちゃん 楽させる	いい子だね トマトのように 可愛くて	海に出て いつかなるんだ 名人に
のりたけ	蓬田で キャロル恥じらい 桃太郎		
藤井恵美子	親しめば よりひかれあう コミュニティ	総量が ざわめいている 生産地	ひと村の きわまる魅力 君だった
スミス	「蓬田」は “蓬”うが隠れた いい村だ	蓬田は 自然豊かな 美レヅだ	
ちゃちゃ丸	5Gより 基爺で繋ぐ 隣村	市町村 列の末尾は 超損	おやつまで 庭先トマト 盗み食い
とっしー	今日知った よもぎた村は 楽しそう	村祭り トマトもまとう 晴れ姿	三味・太鼓 祭りの音に 人集い
エリカ	トマト食い桃太郎みたい強くなる	太陽を独り占めしてビーチバレー	トマトから元氣貰って共白髪
小雪	ヤマセ吹く帰りたくなる村がある	合掌の手で温めている寒村	いつまでもじっと待っててくれる村
ターボー	年老いて孫と遊んで若返り	ニコニコと笑って過ごし長寿なる	折り紙でくす玉作り百過ぎる
まさちゃん	茄子をもぎ 胡瓜味噌つけ 新米で	流れ星 蛍が乱舞 村祭り	顔なじみ 皆助けてあい 生きてゆく
ひささち	村にあり 集い育み 紡ぐ祖が	立ち話 角を曲がれば また誰か	ピンポンは 鳴らず真っ先 扉開く
おがわ	人口を トマトが抜いた 我が村よ	「おかえり」と 村がまるごと 家族です	村の地図 ばっちゃんの記憶がナビ超える
岩窟王	長寿国村を歩けば過去の人	過疎の村老人一人が家守る	村人は元氣と言えど世捨て人
グランパ・クマ	Eメール わからないから 聞きにきた	わが村にゃ 米は売るほど あるけれど	農業を やめて職業 ノー業に
早希子	村行事泣いて笑って絆増す	村祭りいつもの行事続いてく	
くにちゃん	蓬田の 余も来た村へ OHサンキュー		
風まかせ	村祭り平和の味をかみしめる	還暦も古希も傘寿もまだ若い	村離れ気づく蓬田村の良さ
みーにゃ	聞こえるよ 温もり感じ また先へ	聞こえるよ 笑いも響く 村中に	歩くたび あらたなページ 綴れてく
白川 譽	特産品桃より甘い赤トマト	鬼さえもほっぺを落とす桃太郎	きびだんご代わりにほしい桃太郎
和田一真	盆休み 我も訛りも 里帰り	東京で 同郷出合い 訛りでる	村ひとつ 生き物みたいに 生きている
コトラフ	都市熱は ないが人びと あたたかい	人口は 過疎でも絆 密な場所	村里は 都会疲れに 効く薬
ゆきんこ	継ぐ美田 冬の白鳥 子から孫	帰省して ホタテご飯に 舌鼓	夏祭り トマトも香る 海香る
ひろみん	蓬田でよもっと君が活躍中	蓬田はオオハクチョウに会える村	蓬田は自然豊かなトマト村
大井田 雄策	村八分 無くし健康 腹八分	村八分 止めて目指すは 腹八分	村にこそ 残る自然と 意地がある
あいらぶ	都より 住めば都の 蓬田村	村だって 都会に負けぬ 郷土愛	ふる里へ おいでよみんな 蓬田村
野うさぎ	村人が 尊重（村長）出来る 人選び	水美味い 空気も美味い 二等流	市も町も 村に合併 すれば良い
わんこなり	宇宙から 見えた真っ赤な トマト村	サウナから 陸奥湾ダイブ できる村	県庁に 近い村かも 日本一
アツミール	こんな村 嫌だと思わぬ 令和の子	マイクラに いるのと孫に 言われ村	村八分？ いや十分や！ 満足度
尊の君	村祭り祖母の笑顔に見る乙女	都会より村で若いと照れる父	軽トラで今日もデートと村走る
夕陽のガンマン	蓬田の村は何時までそのままで	故郷の村は日本の原風景	残したい農村山村その呼び名
草堂Q幸	村は減りふるさとなくす気分なり	人が減り絶えてしまった村祭り	なつかしい日本の景色村にあり
ピエロ	この地にて 取り得た知識で 長生きを	伝えるは 自然の恵み 財産と	恩恵を 享受して 賜らん
ふる里愛	子らの句に 村愛の情 育まれ	村里の 空気を揺らす 新幹線	星シャワー 掌開きて 村の闇
松下弘美	あの村の甘いトマトに恋をする	一万歩村から村へウォーキング	
かばくんのかば	こわもての 八十路が仕切る 村祭り	収穫の 手をとめ集う 村民祭	村祭り 盆に帰らず 子が帰省
中澤仁捷	還暦は村で若手の祭り笛	帰省して訛りに戻る村祭り	代々の汗を知ってる村神輿
三郎	旅人が ハーブの女王 探す村	村自慢 めごこに蓬に ホタテ貝	よもぎ温泉 村どう宝ぞ 憩いの場
北野剛	のどか村コンビニマクドの町並みに	人口減村の名残るわが故郷	村自立自然で集める観光客
かめ太郎	ダンボール いっぱい母から 村の味	村民と 胸張って言う 入学式	

ぷーちゃん	とれたてが 食卓にぎわし 舌もこえ	新鮮な 野菜買わずに おすそわけ	家庭内 ケンカ村中 広まって
音次郎	きてみなよ みんなたのしい ぼくのむら		
しん	Wi-Fiがあれば暮らしは町以上	ネットありゃ村の暮らしは町以上	Wi-Fiがあれば田舎は町以上
ルーキー	初恋が旧姓で呼ぶ村祭り	村かよが村はよになる子の帰省	移住して増えた不便と笑顔の日
有海無音	この国を支える183の村	ね村ない輝き続けるふるさとよ	干し柿を見てあのおばあを思い出す
よかにせ	知らんけど 世界に誇れる おらが村	半世紀 道は新品 村廃れ	古希となり やっと分かった 村の良さ
とかか	ばあちゃんの 声で目覚める 村ラジオ	村祭り スマホ構えて 鬼が舞う	村の道 地図には載らぬ 話の輪
めぐみ	村を出る 朝が一番 道狭し	村八分 今はLINEで 済まされる	歟持てば 子らも真似する 村の夏
豆の蔓	定年で村に戻れば若い人	過疎の村お地蔵さんも人の数	人よりも野良犬目立つ過疎の村
ファンタ爺	蓮田村 コンパクトだが インパクト	イノシシと 人口競う 蓮田村	山中の 澄んだ空気が 隠し味
ヒロコ	店頭のトマトが語る国訛り	ささやかな村の暮らしはトマト色	村に吹くトマトの風は未来へと
ぴーちゃん	美味ホタテ ながいもにんにく 村自慢	村民の 豊かな心 郷土愛	
さとやん	あくまでも平和な村に鳴くカラス	山村の紅葉ひときわ美しく	はじめから静かな村に冬が来る
茶唄鼓/ちゃかどん	星は冴え銀座通りにいない	トラクター村一番の高級車	村役場合併のつど遠くなる
シャレスキー東村	おらが村津軽自慢の長寿村		
板垣光行	可能性 人と自然は 無限大	村に来て 消えてしまった 悩み事	テーマパーク よりも気になる 村祭り
みさご	統合で 失くした村の 名を名乗る		
前田 哲	伝統と歴史があると胸を張れ		
岡田 不二夫	トマト好き つなぐ蓮田に 人の群れ	騒ぐ血を みんな連れだす よもぎた祭	悪人は 一人もいない 蓮田村
きさらぎ彼句吾 (あくあ)	嫁ぎます村から村へ蕎麦の花	アダムとイブ やがて蓬田村になる	村はずれの地蔵と語る二度童子
アルサブア	ミャクミャクと 瑞穂の村の 米づくり	村興し トマト風味の よもぎ餅	ミャクミャクと 村人つなぐ 秋祭り
十猪	村人の名刺代わりに置くトマト	長嶋が村山を打つ天覧日	ドンブラコと蓬田村のトマトかな
在星猫	村の字は 木々に囲まれて 暮らす人	町よりも 市よりも貴重 村の数	我が村は 誇りを持って 言える村
大阪ゆうちゃん	どの爺も 起きてすぐ飲む ワンカップ	住みたいと お世辞言うけど もう来ない	知らぬ間に 自治会長に されていた
ちーこ	蓬田に 溢れるトマト 村恋し	ちーこ猫 今日も派手に お出迎え	蓬田の 海に乾杯 釣り人よ
みわ	祖父の声 畑に響く 初夏の風	春の雨 土の匂いが 村包む	懐かしい 匂いと人の あたたかさ
小器晩成	よもぎたが ビレッジになる 新時代	小粒でも ビカッと光る 存在感	よもぎたの 村のロマンは 不滅です
kawase akira	村民祭 光る蓬田 光る君	蓬田に 惚れて納税 ふるさと化	独り占め 絶景楽しむ 大倉岳
竹とんぼ	それぞれに楽しみがある村の四季	体験をするたび村に戻りたい	村時間ストレス消してマイペース
莓大福	村民は大きな家族助け合う	ゆったりと心の癒しが村にある	力出る食べ物飲み物ある生活
ミクロコスモス	村ベレジ 菌無し先生 しかへでら		
一帆	白旗が小さく揺れる村はazole	第一村人発見 僕のシンデレラ	
かりゆし	「村だから」 去ったが戻る 「村だから」	「何もない」 住んだら不満が 何もない	
なやな	若手入れアイデア募る村おこし	村を町昇格ねらい村おこし	のどかさ自然が村の代名詞
びなぼ	静寂の 村に漂う 充足感	村まつり 今年も名前が 出てこない	居るかなと 訊いてる間に 上がってる
小出登志子	静奏も余韻も楽し村祭り	ばあちゃんがイキイキしてる村民祭	村民祭蓬田村はここにあり
お茶	今日もまた 村に綺麗な 朝が来る	変わらない 景色が好きで 此処にいる	小さくも 大きくもある 村が好き
四季桜	近所から 野菜が届く 村付き合い	代表は 今では貴重な 村長さん	わが村は 合併せずに 一世紀
はるやす	寝てる土地 活用したら 村おこし	なれそめは 帰省で会った 村祭り	医者いらず 村の野菜が 長寿薬
傀儡師	村育ち 田舎者だが 大地踏み	思い出は トンボ追いかけ 染む夕陽	畦道で 恋も語った 村の様
村田真	だれそれの うわさ拡散 ネットなみ		
PON5	村入りし 古希でも若手 カテゴリー	村離れ ふるさと納税 陰ながら	移住者が 大黒柱 過疎の村
空広	蓬田の食の魅力に融かされる	蓬田の空に余生が浮く至福	温暖化蓬田村に白羽の矢
K・U	都会出て 初めてわかる 村の良さ	過疎の村 赤ちゃん生まれ 大ニュース	声よりも 村を賑わす 蝉時雨
田舎暮らしさん	留守宅に ナス置く優しさ 里暮らし	呼び止められ 買物忘れ 長話	盆正月 賑わい過ぎても 蓮田(ここ)が好き
伊藤テト	熟トマト 爽やか甘味 夏の風	活帆立 帆を立て進む 味がする	
海の子	村祭り 浴衣の君が 好きだった	登下校 潮の香かおる 海の村	村祭り いつも笑顔な 君がいた
吉 哉郎	村社会 仲良く生きる 互助共助	村祭り 老いも若いも 村あげて	気を配り あってはならぬ 村八分
片見朔	出身が村で終わると盛り上がる	都会から逃げたい夜に帰る村	自然しかないけどそれでいいんだよ
ミナト	草かおる子どもら村の宝もの	生まれたらみんな知り合い助け合い	村駆けたお転婆娘今の妻
蓬田 赤茄子	陸奥湾 ホタテの息吹 村を編む	桃太郎 赤く灯して 村笑う	村灯り 銀河の端で またたいて
鯉主夫道	原色で描いたような夏の村	秋の風遮るもののない田舎	村娘合併しても村娘
赤とんぼ	冷やしトマト 食べてしのいで 村に秋		
おかか	ゲームでの BGMIに 癒される		
まーちゃん	小さな村 強いつながり 人と人		
のさっく	村歩き気づく日本の進む道	クマまでも住みよい村は悩ましい	過疎だっていいじゃないか村だもの
ともやん	よもぎたの トマトはみんなの 宝物	トマトから 愛情伝わる よもぎた心	
横手敏夫	蓬田に 行って良かった 宝村	蓬田村 こんな良いとこ 外にない	蓬田に 一度はおいで 別世界
守田啓子	空き瓶に村の欠片を入れておく	さとの君だなこの村に昇る月	ゆく道に広がっている蕎麦の村
橋本 英幸	村自慢 野菜と人の 味が濃い	村道に イノシシ横断 信号なし	村道を 走ればみんな 顔見知り
ちゃったマンゴー	GAFAでも敵わぬ村の情報網	人の輪が和となる村の夏祭り	ふるさとのランドマークは村役場
せみさん	よもぎ茶が 添えられ届く 母の味		
みなまる	国の法 よりも優先 村の法	日本村の 常識世界じゃ 通じない	蓬田村 日本最後の 村となる
小坂武弘	熱き村 特産品は 母の味	平和村 トマトで育つ 子たくさん	生きてやる トマトかじって ボケ防止
水野綾子	柿の実は 故郷の味 甘い味	村の子ら 時計読まずに 空を読む	灯り消え 村の夜空は ブラネタリウム
たぬき親父	蓬田の ぶらり散歩は 村の駅	ディープな レトロとロマン 溢れる村	お買い物 心ゆくまで 村の駅
くにたろう	あちこちで 花が咲いてる 祭りの日	トマトより 赤く燃えてる 村の長	町よりも 気心知れた 村が良い
夢風人	夢描く 村の子どもに 笑顔咲く	変わる世に 変らぬ村に 新時代	活気ある 村のリフォーム 挑む人
小太り婆さを	道祖神長生き願い手を合わす	預貯金は老後のためだ今老後	気が置けぬ仲間と駄弁り吟行す
いなさく	住みよいよ 田んぼ温泉 海もある	川柳で 村の知名度 全国区	米ならば 買ったことない 村の人
本間孝男	村の皆 村のみんなと 友達だ		
えびふらい	村の人 みんな知り合い 支え合い	今もある 地域のつながり 村ぐらし	むらかそん よもぎたどっち むらですよ
豆風	就活で 見つけた村で 終活も	右ホタテ 左はトマト 蓬田へ	この地味な 豊かさ味わう 村暮らし
八木 五十八	移住者も一夜あれば村の衆	れんげ咲く心の村にごんぎつね	田と生きる村に口伝の子守唄
木立慈雨	朝一番村の野菜は人気者	村内の無い無い詐欺に異議唱え	セキュリティしっかり管理山の幸
まこっちゃん	いつか市に なる夢捨てて 村がいい		
右田俊郎	村に来て村に魅かれて村に住む	村人の熱き人情魅せられる	移住して余生を託す村造り
井上 靖彦	ふれあいは 村の幸せ 未来あり	便利より 村の幸せ 願う人	流れ星 村の空舞い 未来あり
華杏	ふぞろいの トマトも人も 味がある	桃太郎 絵本じゃないよ トマトだよ	
貯虎	食べ物は豊富な村に人いない		
宮島善英	令和でも歴史が生きる村祭り	バス停を守る地蔵や村はずれ	じじばばが孫に伝える村祭り
岸明日翔	よもぎたの トマトのやうな 良い笑顔	よもぎたの 情熱笑顔の 赤トマト	
みかん	敬礼す 村を見守る お地蔵さん		
Metoo	都市住まい 村はどれだけ 良いものか	繋いでく 文化と自然 村特権	村ならば 今日の月は 綺麗な
亀甲まん	朝露に 光るトマトや 村の宝	稲穂揺れ やませが語る 村の歴史	
しげやん	森川土プラス人らし子ある暮らし	子あるこそ希望アスアツ村祭り	長寿村子たくさん多様性
南和男	爺ちゃんも 若者になる 村祭り	町になり 村という名が なつかしい	近付くと なぜかそわそわ 村祭り
みい	受け継いだ 三世代なった トマトガチャ	私ほど ずば抜けている トマト愛	ノンアルと 減塩しながら トマト食う
黒飛義竹	四季がある 春夏秋冬 色がある	案山子にも 一票ほしい 過疎の村	絵を描けば 緑と青が 減る田舎
桑原美幸	ふるさとの 村の魅力に 税の推し	ふるさとの 村の魅力に 税の推し	定年後 僕はトマトの 管理食
さんごしょう	誇りもち昭和百年闊歩する	憩いの「むら」トマトはうまい「そん」はない	誇りもちSDGs自然体
とらにゃん	安全で 防犯カメラ たぶんない		
中年やまめ	山と川美田織りなす原風景	ググリまる訪ねはなまる情の村	海の幸野の幸豊か地味豊か
松本俊彦	村社会知らない人はよその人	村長は何でもやってくれる人	嫁が来る村民全員集合す
吉田さをり	都会では 疲れちゃうかも 人混みに		
北野浩子	神社にて 子らの笑顔が 風になる		
江戸前姐御 (えどまえあねご)	よき村で 思い出ふえて 体重も		
くりりん	ふるさとへリターンして満喫す	ふるさとへ納税したてなつかしむ	過疎の村むらの駅だし賑わいに
けろね	村おこし晴れ着の妻の華やかさ	豊作の米と豪邸嫁を待つ	ふるさとの山父になり母になり
ささゆり	色褪せた地図が迎える村の辻	ニホンザル村の人みな温かし	
ぴんくの	蓬田は もぎたて野菜 凄い村	蓬田の 愛称やはり トマト村	村という 響きが今は 新しい
窪田輝夫	「ただいま」が「おかえり」探す村祭り	五人目のマツケンサンバ村祭り	難聴に響くテケテケ村祭り
おひさま	生き生きと 村生活を 楽しもう	村景色 自然と人が 心地いい	開放感 豊かに育つ 村生活
ake	蓬田の 村を彩る 桃太郎	咲き誇る 笑顔の蓬田 村民祭	故郷を 見つけた蓬田 一人旅

福士雄大	稲穂連(つ)ぬ 葵(き)と碧(あお)光る 上磯路	松風に 吹かれり知らせ 今日も待つ	桃太郎 赤い果実を 腰に据え
山田明	青春の恋するトマト光る村	長寿生むトマト帆立が村で待つ	コンビニが元気もたらす過疎の村
働き蜂ちえちゃん	地産地消 村の元気と 長寿国	村祭り 皆の元気が 踊り出す	新鮮な 野菜の元気 村の笑み
やんちゃん	変わる世に変わらぬトマト四姉妹	トマト好きヨモットくんはもっと好き	プリプリのホタテと美肌競い合い
井内雅仁	農作業 家族総出の 腕自慢	麦踏の 後に木枯らし 冬を呼ぶ	ご近所も 一緒に揃う 田植え時
風信子	助け合い 村がひとつの 大家族	共に生き 海と大地と 村人と	村ぐるみ 育てる子らに 託す未来
寺田無垢	手をかけた 村のトマトが 人を呼ぶ	村起こし やる気トマトが 旗を振る	人情と うまい空気が 村にある
渡邊こあき	なんでもある 村になってる デジタル化	新役場 ニューウェーブの 風が吹く	海がある 山があるさと 村が呼ぶ
高木まあこ	村が好き 何がなくとも 土がある	村はずれ 月に焦れる 婆ひとり	
宮古中子	時刻表から 虫の合唱 無人駅		
藤田智恵子	羊水を 逆走すれば 村の水	村を出る 小石一つを 握りしめ	村祭り 座敷童子も 笛吹いて
ばばりん	離岸堤 ひょうたん島の 着いた村	村生まれ ヨモットくんが 宣伝部	白鳥が 冬の人口 増やす村
北斗	特産品 村盛りたてる 宝物	村一番 話がわかる 生き字引	村民と 触れる楽しさ 盆踊り
坂本キヨノ	米ホタテ トマト頬張る 村に居る	うぶ声と なきから土に もどす村	ヤマセ吹く 村だが好きな 人と居る
犬淵 猪	錦鯉 山古志村の 高らかさ	闘牛は 山古志村の 誇らしさ	棚田には 村の歴史が 刻まれて
稲葉浅治	選挙など 村民皆んな 忘れてる	赤ちゃんが 一人生まれて お祭りだ	